

2020年11月期

# 決算説明会資料

(2019年12月1日～2020年11月30日)

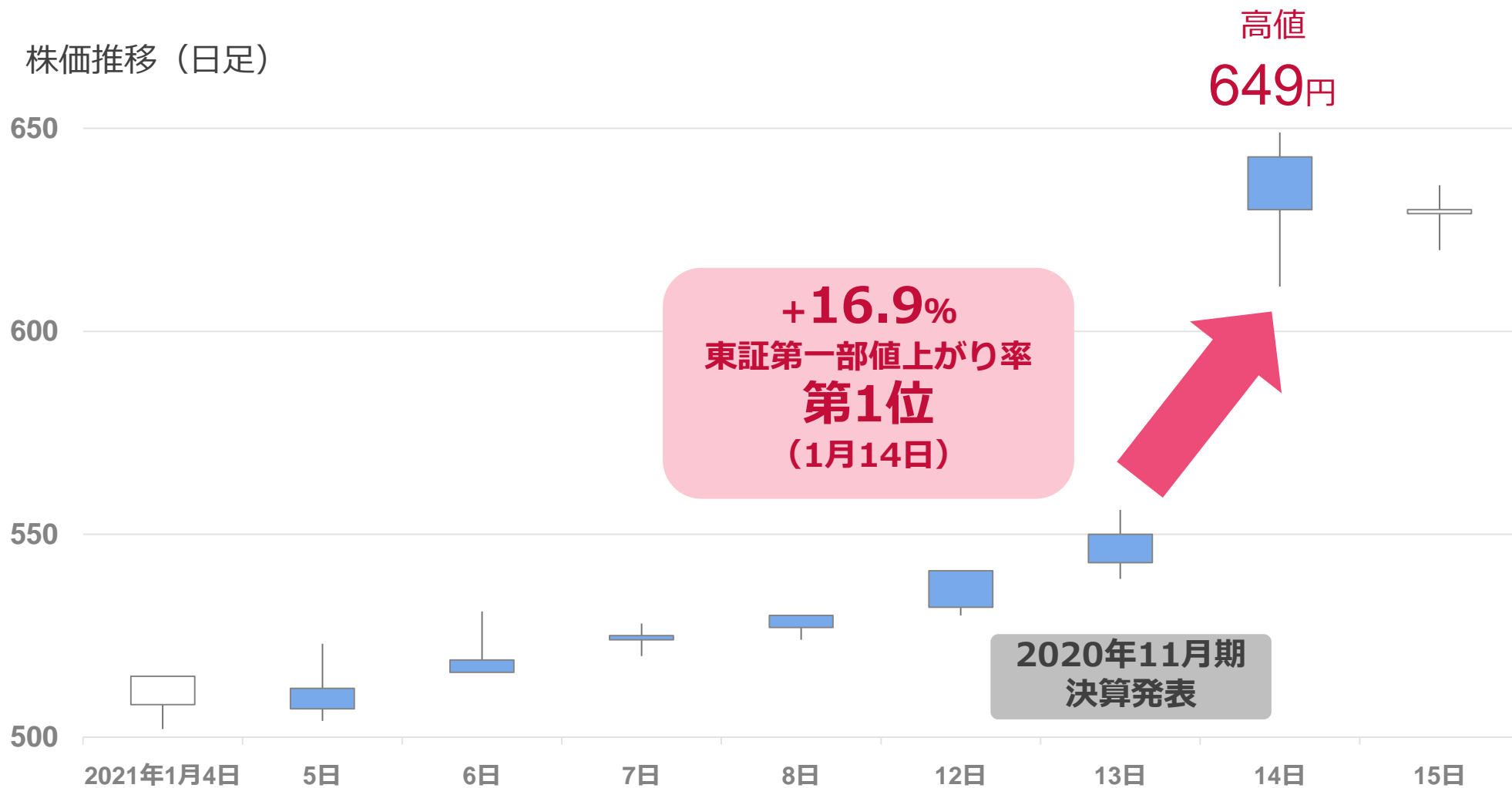
2021年1月19日(火)

(東証第1部:8095)



**イワキ** 株式会社

# 株価推移 (日足)



2021年6月の持株会社化移行に際し、

# アステナ ホールディングス(株)

に名称変更いたします。

アステナは「**明日**（未来）」と「**サステナブル**（持続可能）」の造語であり、新たな経営・ガバナンス形態の下で、アステナ・グループのステークホルダーである皆様と当社自身が持続的に健やかな未来を迎えられる願いを込めております。

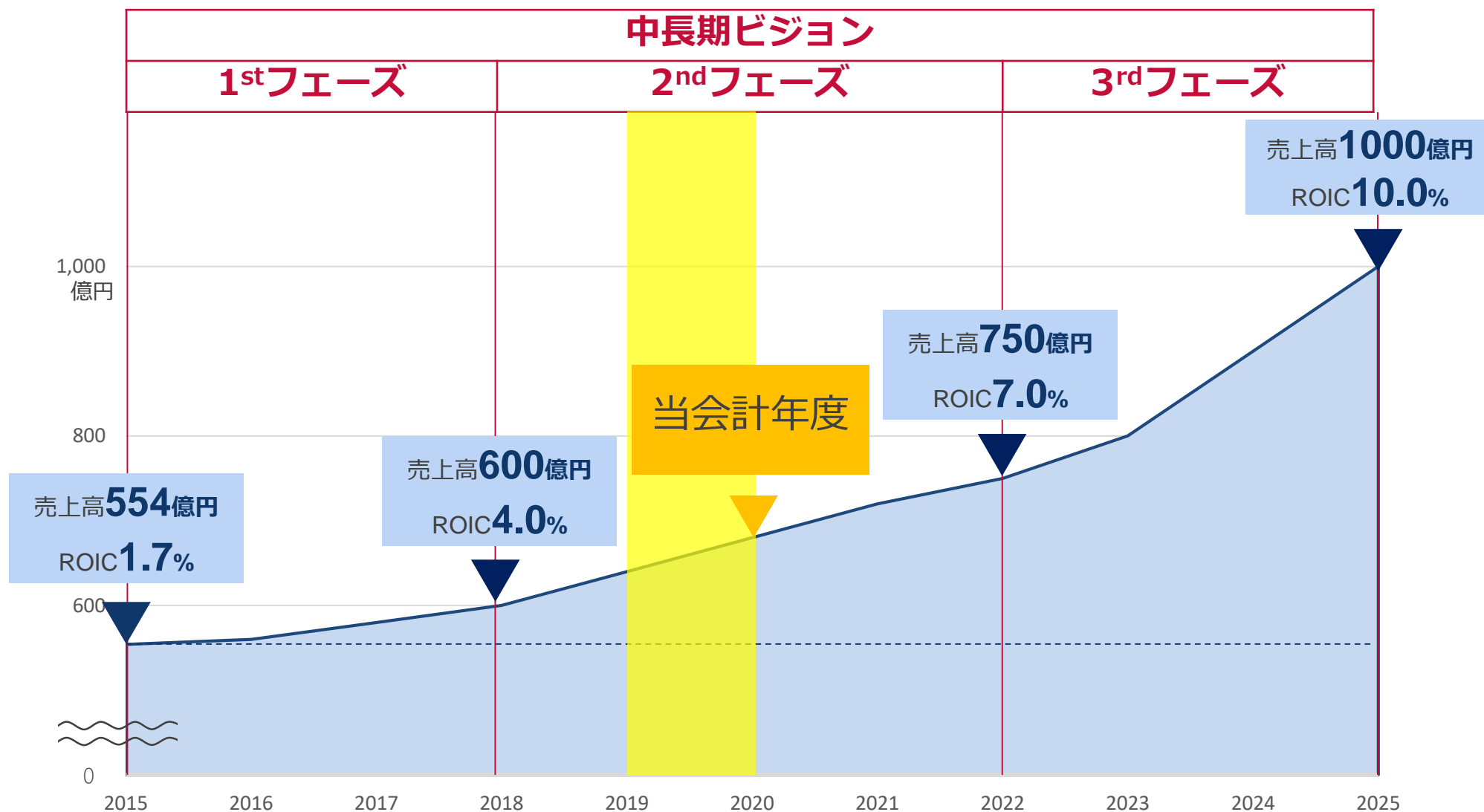
# 本日のご説明内容

I. 決算概況

II. 中長期ビジョン

III. 今年度の見通し

## 当会計年度はVision “i-111”の中間年



# 売上高及び当期純利益が創業来最高に

	実績	前期増減額	前期増減率
売上高	653.4 億円	+36.9 億円	+6.0%
営業利益	20.3 億円	△0.9 億円	△4.1%
経常利益	19.6 億円	△3.5 億円	△15.1%
親会社株主に帰属当期純利益	19.8 億円	+4.5 億円	+29.4%
E B I T D A	34.0 億円	+4.7 億円	+15.8%

創業来最高

創業来最高

# 新型コロナの影響をM&Aで跳ね返す










セグメント	売上高		営業利益	
	実績	前期増減額	実績	前期増減額
ファインケミカル事業	214億円	+51.8億円	12.0億円	△0.5億円
医薬事業	106億円	+24.3億円	9.9億円	+1.6億円
HBC・食品事業	258億円	△25.6億円	△4.9億円	△4.5億円
化学品事業	74億円	+0.9億円	3.2億円	+2.4億円
その他※	—	△14.4億円	—	+0.0億円

※「その他」に関しては該当する子会社2社（動物用医薬品卸売）の全株式を譲渡したため、前第4四半期から連結対象外となっております。

# (参考) セグメント別概況詳細

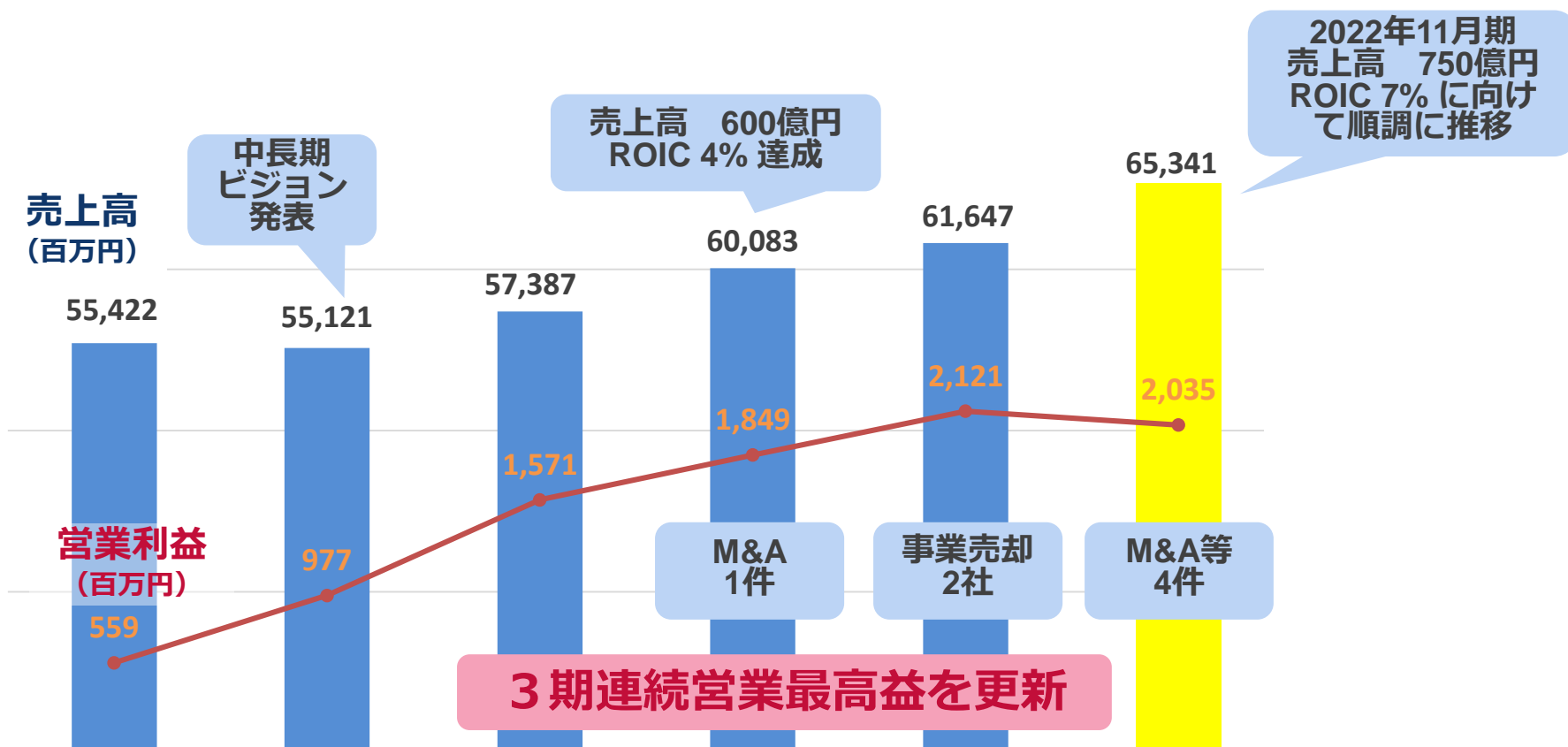
## セグメント分類

## 当期の概況

F C	CMC研究開発 BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ジェネリック用途での<b>新製品用大型原薬の採用等があり、堅調に推移</b></li> <li>✓ 電子・機能材料の製造・販売は需要の減少が続き、低調に推移</li> </ul>	
	医薬品原料BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ジェネリック原薬・新薬用中間体の販売強化に注力し、製販共に中分子医薬分野を重点市場と捉え、<b>海外商材提案・原材料新規開発等を展開した結果、全般が堅調に推移</b></li> <li>✓ 電子・機能性材料は需要の大幅減少等により、厳しい状況にて推移</li> </ul>	
医 薬	医薬品BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 主力の副腎皮質ホルモン剤などの外皮用剤、男性型脱毛治療薬や消毒剤の販売は好調に推移</li> <li>✓ <b>新型コロナウイルス対策向けうがい薬、ビタミンC末・錠や提携外皮用剤新製品の売上が伸長</b></li> <li>✓ 美容クリニック向け化粧品は医療機関受診の減少に伴い売上が低調に推移</li> </ul>	
	医療機器BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 機器関連ではCPAP装置や酸素ブレンダーの販売が堅調に推移</li> <li>✓ 消耗品関連では輸出ビジネスの取引拡大に加え<b>CPAP関連の消耗品が大幅に伸長</b></li> </ul>	
H B C ・ 食 品	化粧品BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型コロナウイルス感染拡大により、インバウンド需要及び国内需要が落ち込み、低調に推移</li> </ul>	
	食品原料BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型コロナウイルス感染拡大による在宅率の高まりで「<b>巣ごもり需要</b>」が拡大し、<b>加工食品向け原料を中心に好調に推移</b></li> </ul>	
	ファルマネットBU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 消毒剤など<b>感染症対策商品は好調に推移</b></li> <li>✓ 空港店舗、首都圏店舗を中心に需要は大きく減退し低調に推移</li> </ul>	
化 学 品	表面処理薬品BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新型コロナウイルス感染拡大により、自動車産業向け薬品が大きく減少</li> <li>✓ 電子部品、半導体向け薬品においては<b>高速大容量通信の第5世代(5G)、在宅勤務向けインフラ需要の下支えなどから堅調に推移</b></li> </ul>	
	スペシャリティ マテリアルBU		
	表面処理設備BU	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 設備投資の中止や延期、不要不急の外出や感染拡大地域への出張停止等による営業活動の停滞により、低調に推移</li> </ul>	



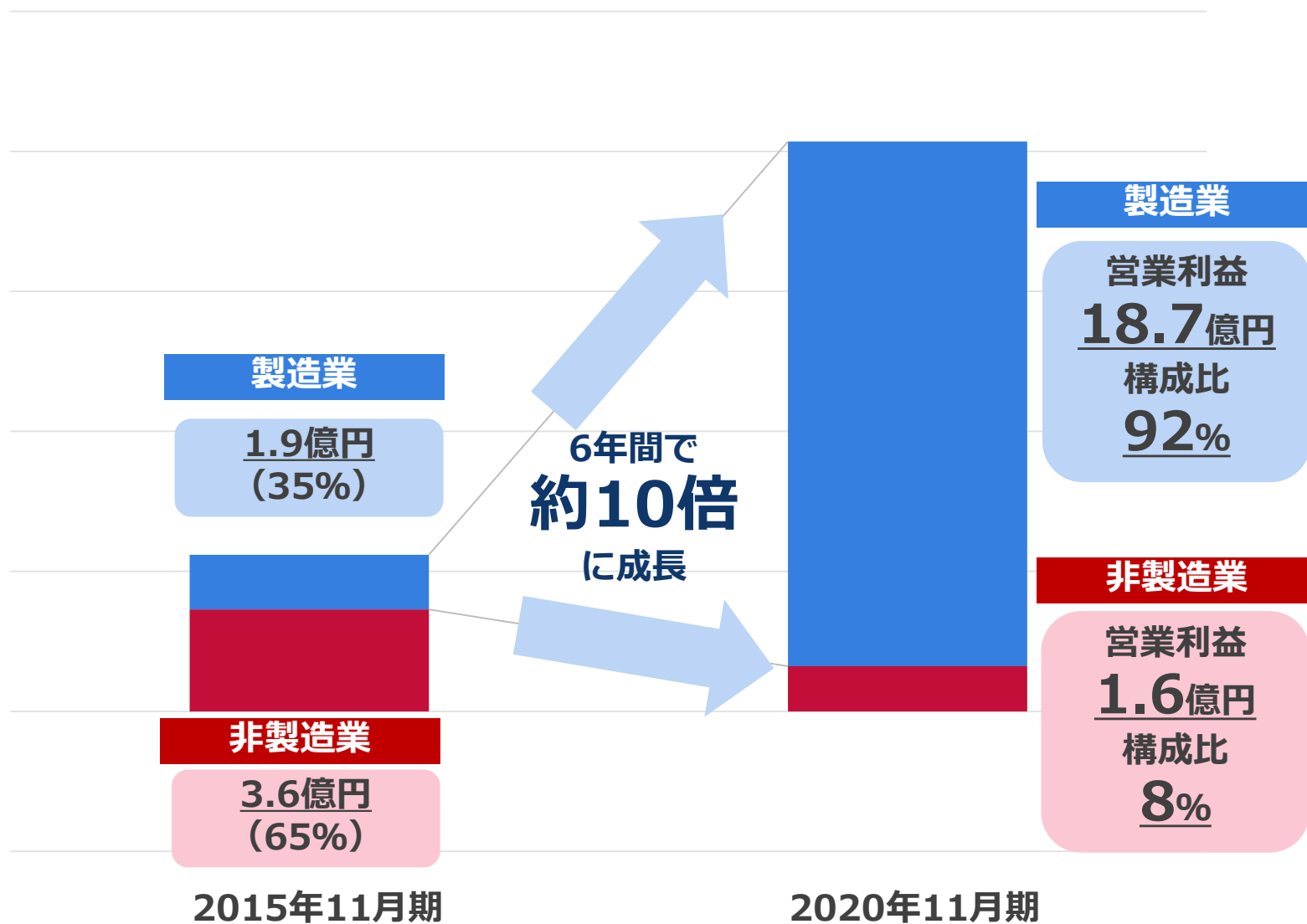
# “i-111”の目標通り極めて順調に推移



	2015/11	2016/11	2017/11	2018/11	2019/11	2020/11	2015/11-2020/11
ROE	▲0.8%	0.0%	7.2%	7.6%	7.7%	9.4%	+10.2pt
ROIC※	1.7%	3.2%	5.4%	6.0%	6.3%	5.4%	+3.7pt
営業利益率	1.0%	1.8%	2.7%	3.1%	3.4%	3.1%	+2.1pt

※ROICの投下資本にはM&Aに関わるのれん、技術資産、顧客関連資産の無形固定資産を含まずに算出しております。

# もはや、卸売業ではない



# 特に「医薬品卸」の売上比率は **14.4%**

売上高構成比	研究開発	原材料製造	流通	製品製造	卸売	小売	計 (事業別)
ファインケミカル事業	CMC研究開発 50億円	医薬品原料BU 37億円	128億円	佐倉工場			214億円 (33%)
医薬事業	新設			医薬品BU 103億円	医療機器BU 4億円		106億円 (16%)
HBC ・ 食品事業			化粧品BU 40億円	23億円	ファルマネットBU 94億円 (14.4%)		258億円 (40%)
		食品原料BU 3億円	97億円				
化学品事業		表面処理薬品BU 53億円 表面処理設備BU 14億円	スパシャリティマテリアルBU 6億円				74億円 (11%)
計	8% 50億円	17% 108億円	42% 272億円	19% 126億円	15% 98億円		100% 653億円

※連結消去の記載を省略しているため合計がありません。

# 株価水準は5年で約3倍に



# 新株予約権による資金調達

ファインケミカル、医薬事業の設備投資のため、新株予約権（行使価額修正条項付）の発行による資金調達を実施します。

## 資金使途

- ①岩城製薬佐倉工場(株)における注射剤製造ライン等に係る**設備投資資金⇒約36.9億円**
- ②岩城製薬(株)静岡工場における高薬理活性原薬製造機能拡張を目的とした**設備投資資金⇒約5.4億**

## 本資金調達の特徴

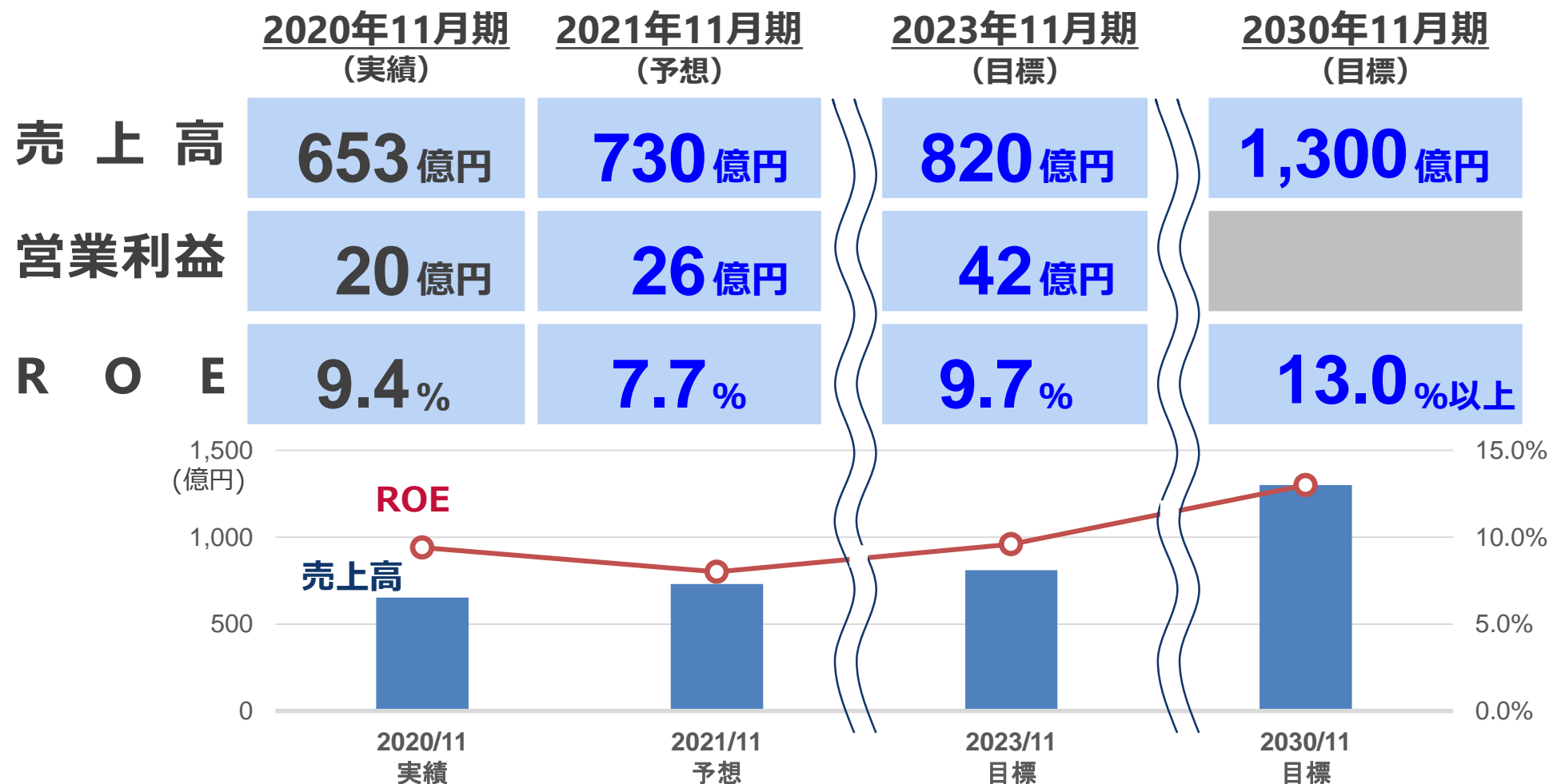
- ①**既存株主の利益への配慮した条項設定（ターゲット・プライス条項及び行使停止指定条項）**
  - **ターゲット・プライス条項あり**（630円又は700円）以上
  - 当社の潜在株式数は一定であるため、希薄化の割合の上限を予め固定
- ②**行使価額修正条項**
- ③**行使要請条項**

## 本資金調達の概要

### 第1回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行による資金調達（SMBC日興証券への第三者割当）

- 割当日 : 2020年12月16日（水）
- 発行新株予約権数（潜在株式数）: 67,200個（6,720,000株）（ターゲット・プライス毎の内訳は以下ご参照）
- 希薄化率 : 19.91%
- 想定調達額 : 約42.3億円（差引手取概算額）
- 行使可能期間 : 約3年間（2020年12月17日～2023年12月18日）
- 当初行使価額 : 630円
- ターゲット・プライス : ①630円（対象本新株予約権個数：50,000個）、②700円（対象本新株予約権個数：17,200個）
- 行使価額修正 : 新株予約権の行使効力発生日前営業日のVWAP×92%に修正
- 下限行使価額 : 350円（決議日前営業日終値×65%）

# 中長期ビジョンを新たに策定



# 本日のご説明内容

I. 決算概況

II. 中長期ビジョン

III. 今年度の見通し

# 2030年までの10年ビジョンを策定

## Astena 2030 “Diversify for Tomorrow”

- 2030年11月期まで10年間の基本戦略と目標値を設定
- 「産業」「技術」「社会」の持続可能性(Sustainability)を高めることを基本戦略とする
- そのために、私たちアステナグループは様々にその形を変えながら(Diversify)目標を実現させていく

### 基本戦略

- ① 策揃え
- ② NO.1
- ③ 社会変革

### 定量的ターゲット (2030年11月期)

- 連結売上高：  
**1,300 億円**以上
- ROE：  
**13%**以上



# 3つの基本戦略、7つのビジネスモデル

## ① 策揃え

### プラットフォーム戦略

#### -CMC(Chemistry, Manufacturing and Control)

医療用医薬品の研究開発を、国内トップレベルの水準で受託

#### -ヘルスケア調達プラットフォーム

医薬品・化粧品・機能性食品製造販売会社の全ニーズをカバー

#### -創薬インキュベーション

CMCの提供を通じて、新薬開発の成功確率を高める

#### -CDMO

医薬品（注射剤・外皮用剤・治験薬）を受託製造

## ② No.1

### ニッチトップ戦略

#### -外皮用剤ジェネリック医薬品

国内塗り薬ジェネリック医薬品市場No.1

#### -ハイエンド表面処理薬品

エレクトロニクスに特化した表面処理薬品。

## ③ 社会変革

### ソーシャルインパクト戦略

#### -シニア・アクティベート

化粧品・機能性食品の提供を通して

「シニア総アクティブ化」を目指す

ファイン  
ケミカル  
事業

医薬事業

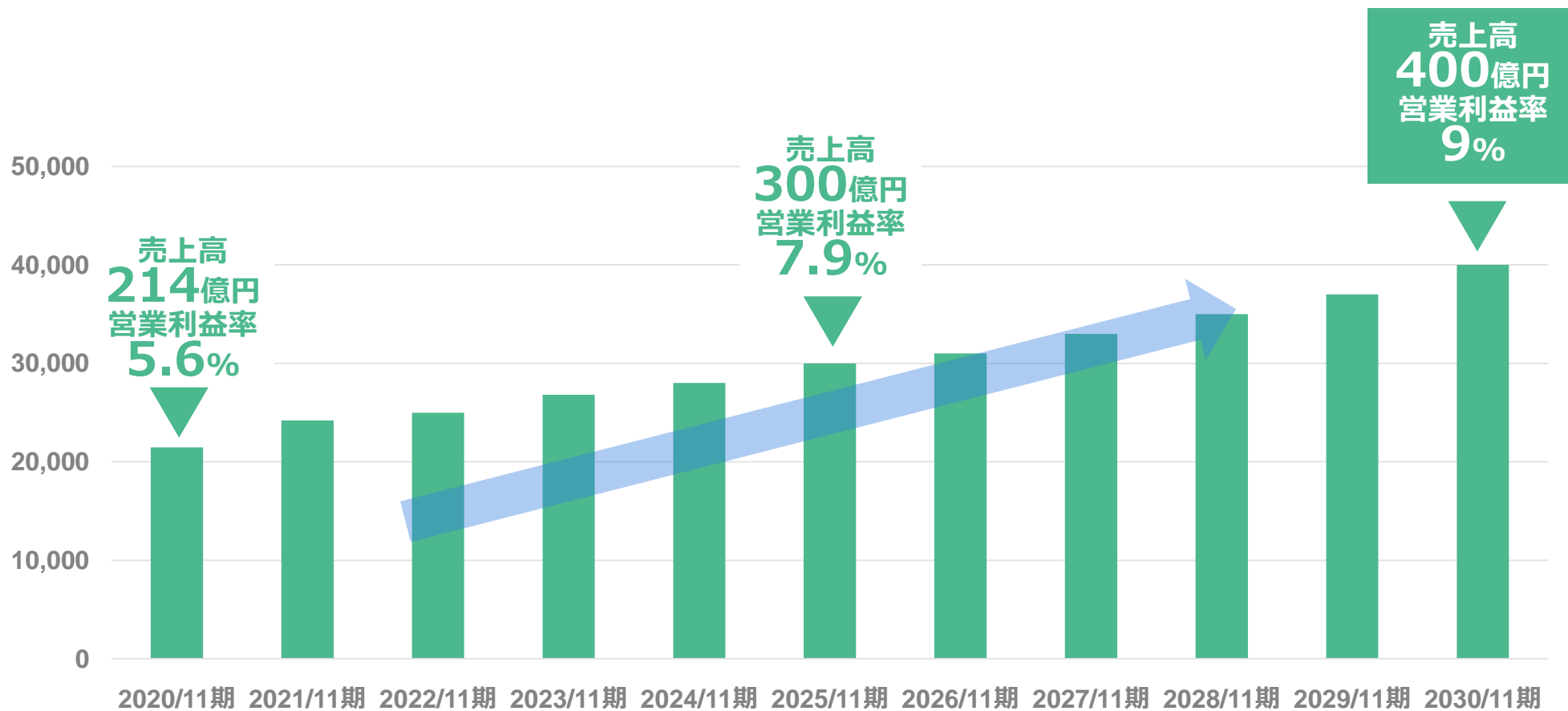
化学品事業

HBC・食品  
事業

新規事業

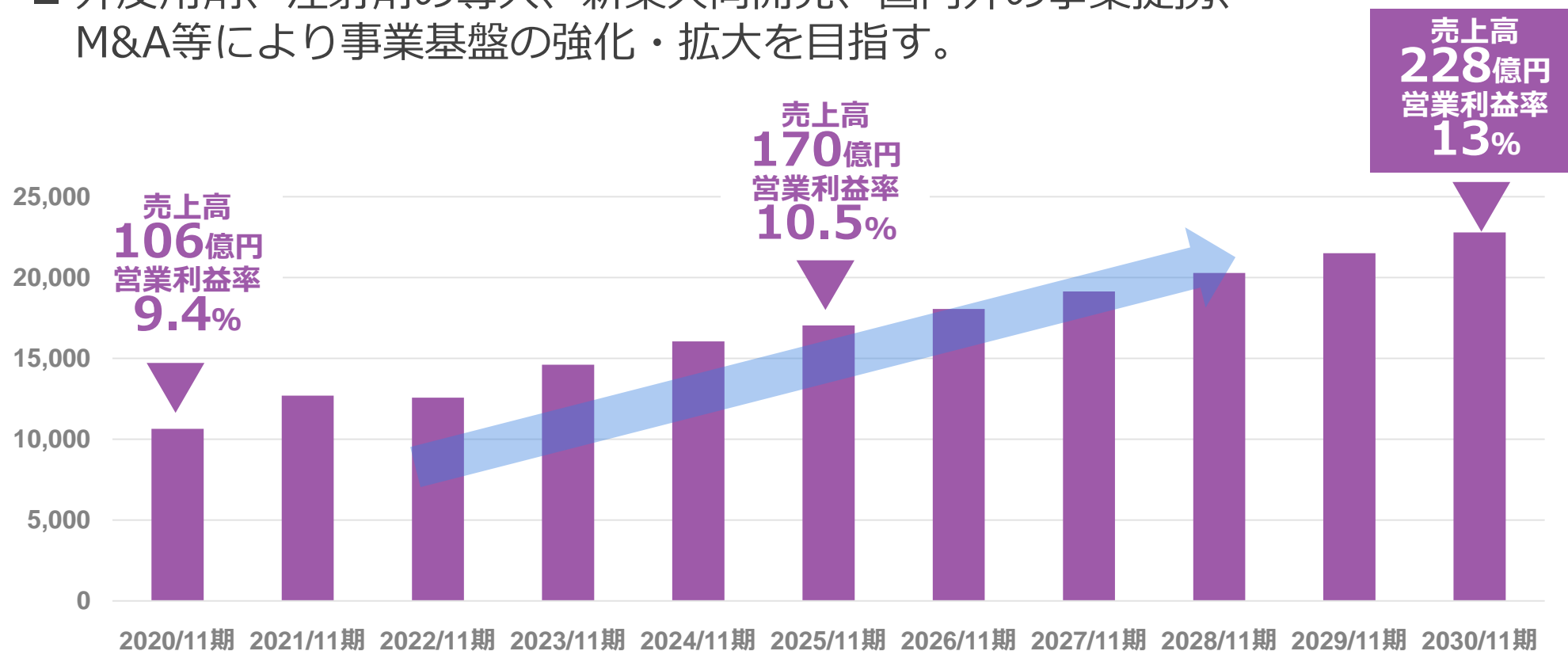
# 基本戦略① 策揃え - ファインケミカル事業

- CMC/CDMO事業と調達プラットフォーム事業を2本柱とし、原材料調達からCMC研究、原薬商用生産までの医薬品開発・製造の幅広いサービスを提供する。



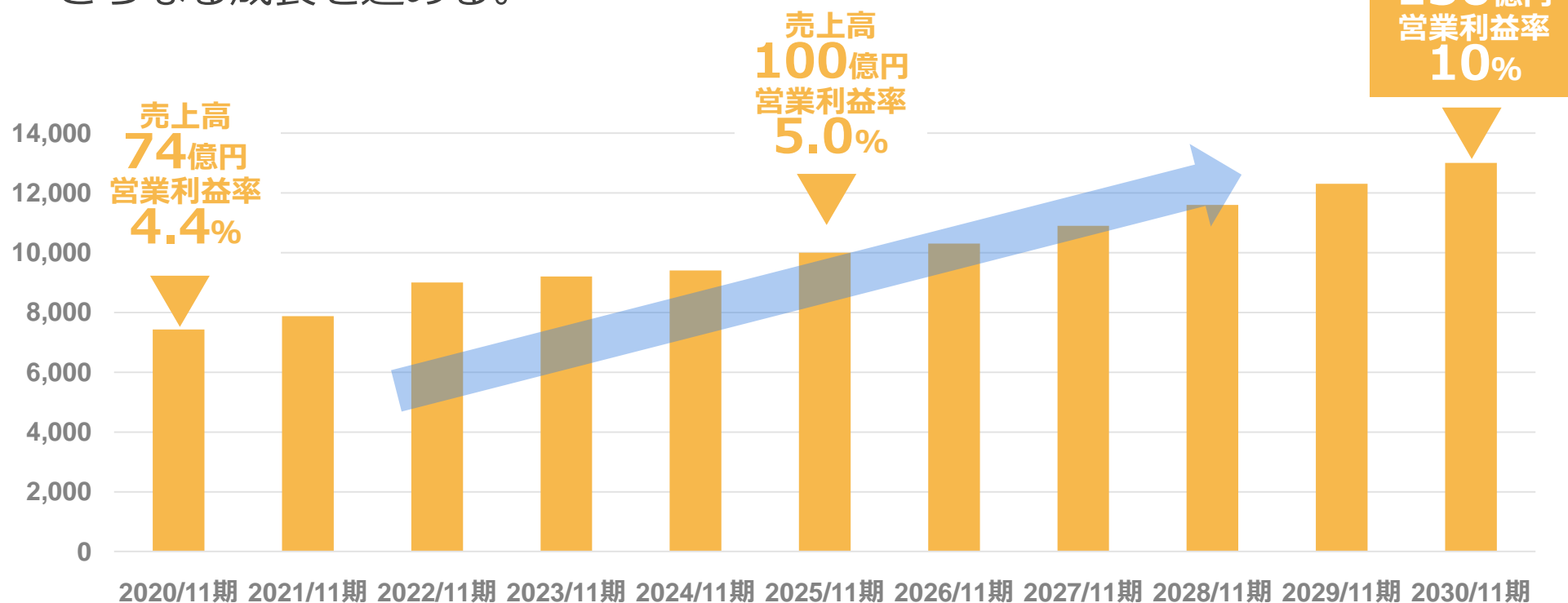
# 基本戦略②No.1 – 医薬事業

- 皮膚科領域をベースに、外皮用剤品目数及び生産キャパシティにおいてトップを目指す。
- グローバル要求水準に対応し、高活性注射剤CDMOのトップを目指す。
- 外皮用剤、注射剤の導入、新薬共同開発、国内外の事業提携、M&A等により事業基盤の強化・拡大を目指す。



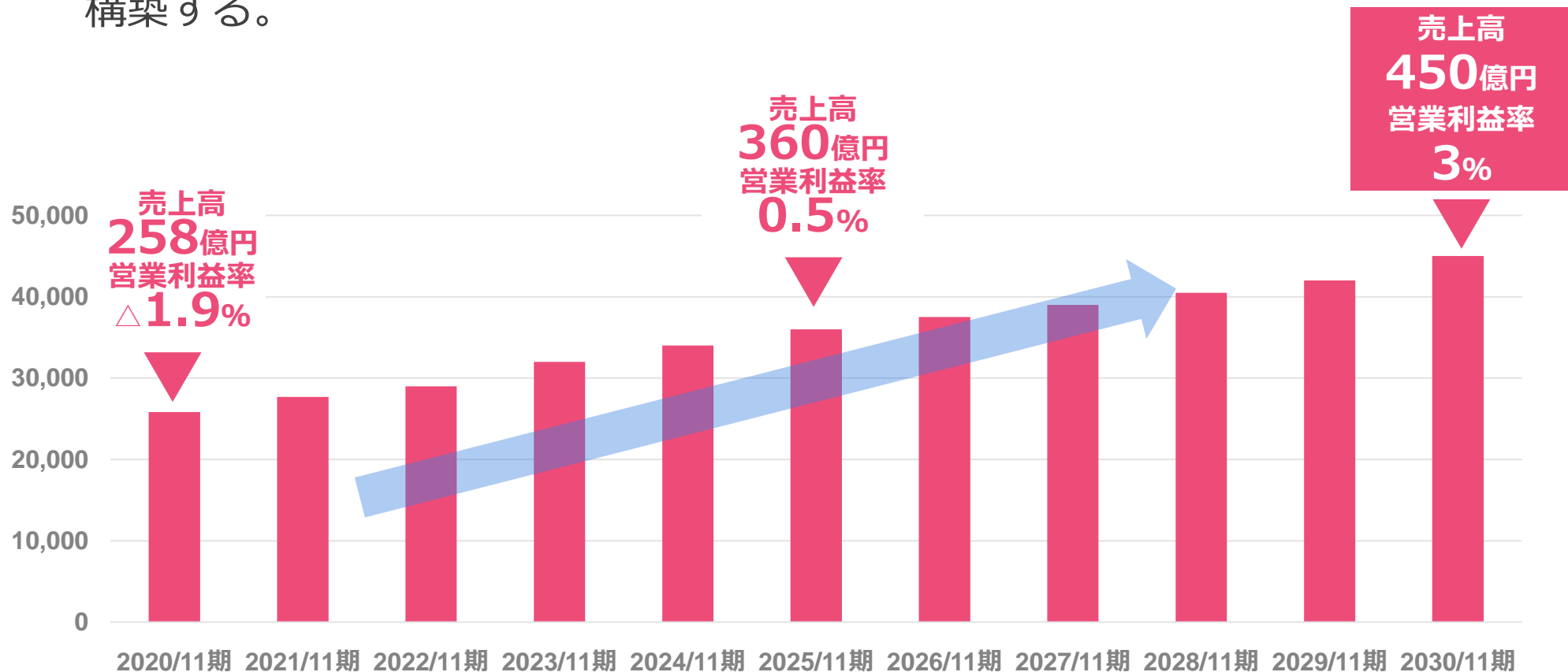
# 基本戦略②No.1 -化学品事業

- エレクトロニクス実装市場のトレンドを捉え、ニッチトップ商品を継続的に開発する。
- ハイエンドパッケージ基板での地位確立、チップ部品用途の実績で台湾・中国大手での採用、半導体パワー・センサー系薬品のさらなる差別化を図る。
- 環境負荷低減を追求し、グローバル企業との共同開発によるさらなる成長を進める。



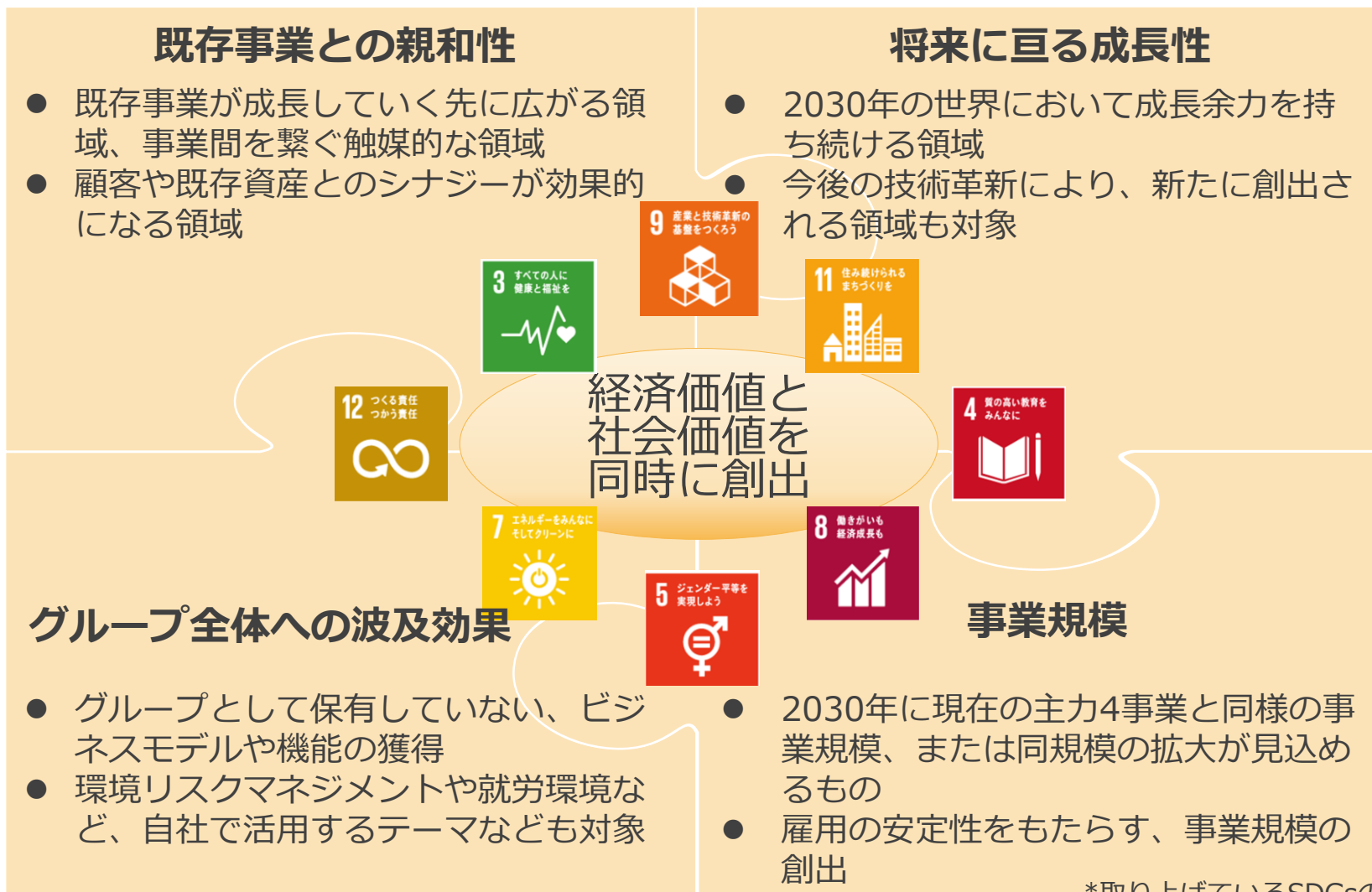
# 基本戦略③ 社会変革 -HBC・食品事業

- 原料ビジネスのDX化により、顧客の開発・調達プロセスにおける課題解決のプラットフォームを提供。同時に独自性を高めた商品・サービスの提供で市場価値を増大させる。
- ダイレクトマーケティング領域への投資を行い、領域特化型のネットワークを構築する。



# 基本戦略③ 社会変革 - 新規事業

将来の持続的ニーズ（SDGs）を捉え、社会と共に成長する新規事業を創出します。



\*取り上げているSDGsの目標は例示

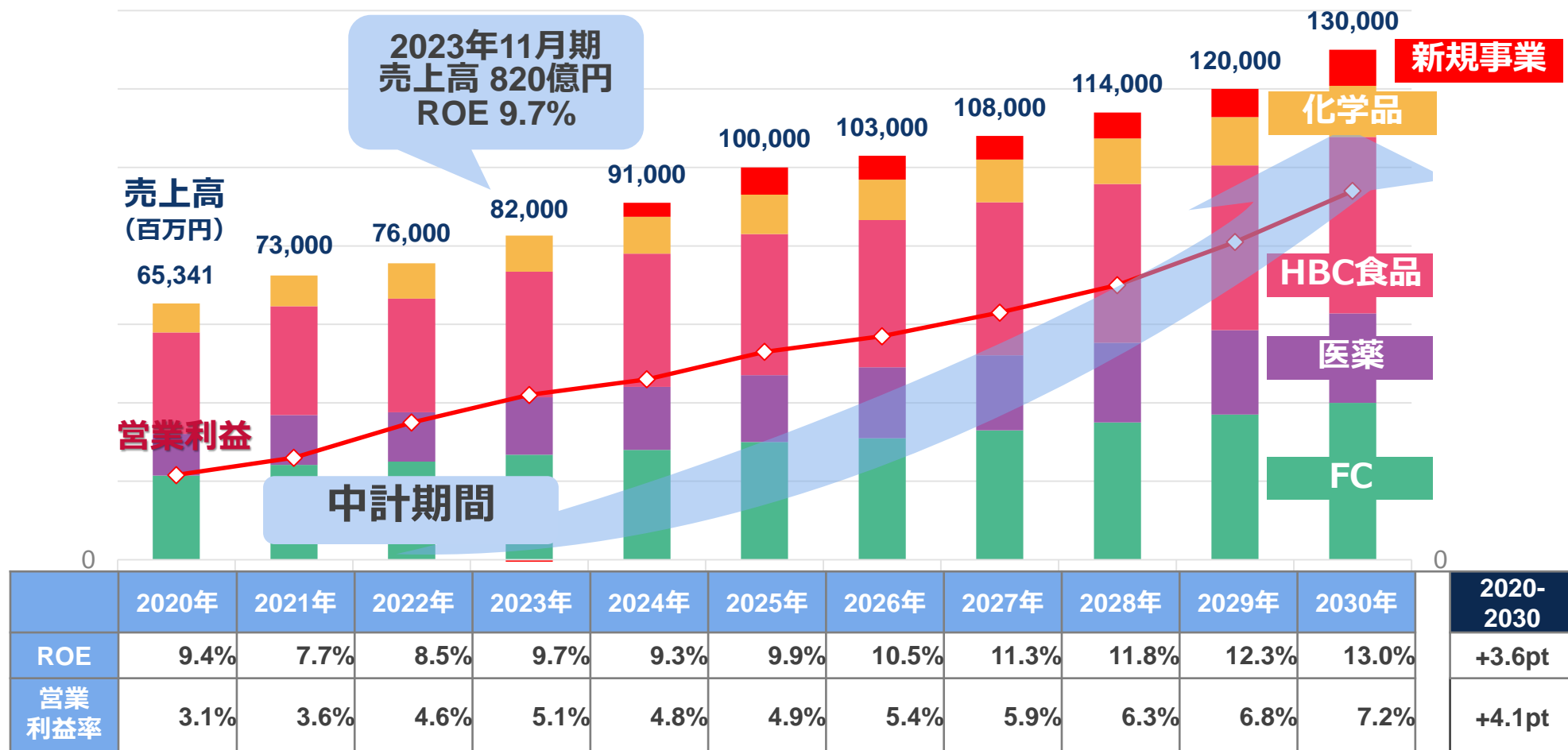
# Astena2030<定量的ターゲット>

新たな計画では指標として「ROE」を採用し、2030年度には売上高1300億円、ROE13%を目指します。

2030年11月期  
売上高 1300億円  
ROE 13.0%

2023年11月期  
売上高 820億円  
ROE 9.7%

新規事業



# 本日のご説明内容

I. 決算概況

II. 中長期ビジョン

III. 今年度の見通し



# 2021年11月期連結業績の見通し

2021年11月期は、創業来最高の売上高とともに、すべての段階利益においても創業来最高益を目指します。

	見通し	前期増減額	前期増減率
売上高	730億円	+76.6億円	+11.7%
営業利益	26億円	+5.6億円	+27.8%
経常利益	27億円	+7.3億円	+37.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	20億円	+0.1億円	+0.8%
E B I T D A	43億円	+9.3億円	+27.3%

## ▶ 新規連結子会社3社増による寄与

▶ 前期は特別利益（負ののれん発生益6.2億円）計上あり

# 株主還元

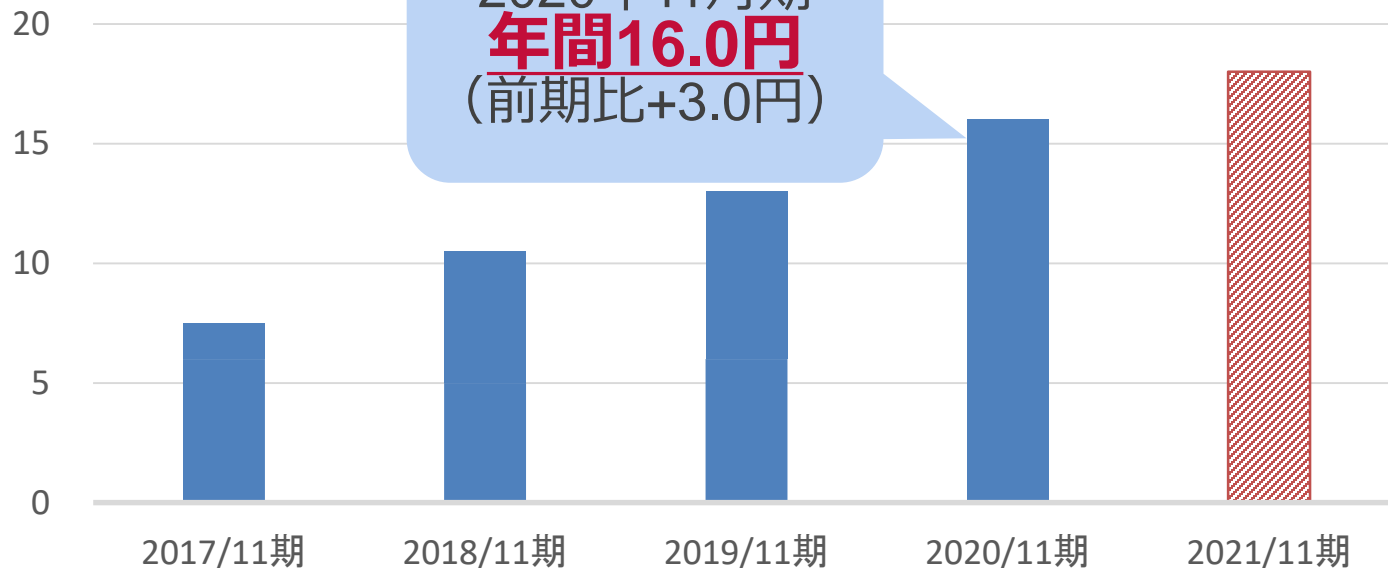
当期は前期の16.0円から2.0円増配の年間18.0円配当を予定します。

## 配当方針

純資産配当率  
(DOE) **1.5%** 以上

連結配当性向 **30%** 目処

一株当たり  
配当額(円)



2020年11月期  
**年間16.0円**  
(前期比+3.0円)

期末配当  
予想

**9.0円**

中間配当  
予想

**9.0円**

年間配当  
予想

**18.0円**

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています。

問い合わせ窓口  
イワキ株式会社  
経営管理部  
Tel:03-3279-0564